

図1

アンケート回答者の基本属性① (n =256)

		全体				九州・沖縄				それ以外			
		n	%	平均	SD	n	%	平均	SD	n	%	平均	SD
現在の年齢※				46.1	10.5			31.9	11.6			46.5	10.6
現在の年代※	20~29	1	0.4			0	0.0	4.0		1	0.5		
	30~39	87	34.0			23	39.7			64	32.3		
	40~49	83	32.4			17	29.3			66	33.3		
	50~59	49	19.1			11	19.0			38	19.2		
	60~69	29	11.3			5	8.6			24	12.1		
	70~79	5	2.0			1	1.7			4	2.0		
	未回答	2	0.8			1	1.7			1	0.5		
性別	女性	256	100.0			58	100.0			198	100.0		
診断時年齢				31.7	11.1			30.9	9.3			44.6	10.2
居住地	関東	92	35.9							92	46.5		
	近畿	55	21.5							55	27.8		
	九州・沖縄	58	22.7							0	0.0		
	その他	51	19.9							51	25.8		
出身地域	関東	52	20.3			1	1.7			51	25.8		
	近畿	38	14.8			0	0.0			38	19.2		
	九州・沖縄	96	37.5			54	93.1			42	21.2		
	その他	70	27.3			3	5.2			67	33.8		

※年齢、年代は2022年2月7日時点で算出。

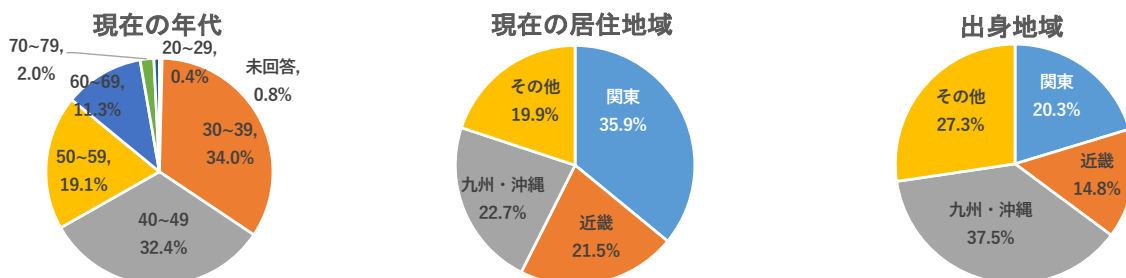


図2 最終分娩時期

現在妊娠中の妊婦さん<Ⅰ>/すでに出産されたお母さん<Ⅱ> (n = 256)

	全体		九州・沖縄		それ以外	
	n	%	n	%	n	%
a.2011年3月31日以前	118	46.1	24	41.4	94	47.5
b.2011年4月1日~2017年3月31日	70	27.3	13	22.4	57	28.8
c.2017年4月1日以後	66	25.8	21	36.2	45	22.7
未回答	2	0.8	0	0.0	2	1.0
合計	256	100.0	58	100.0	198	100.0

妊娠出産時期については、比較的いい
バランスの集団

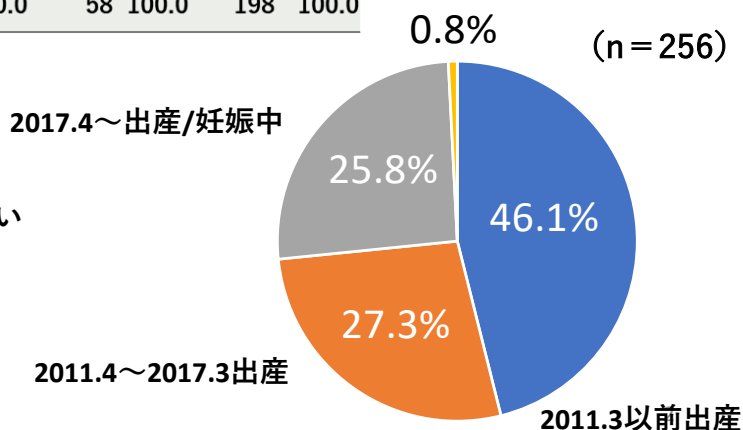


図3 HTLV-1母子感染や予防法について説明を受けた医療者

現在妊娠中の妊婦さん<Ⅰ>/すでに出産されたお母さん<Ⅱ>
2017~ (n= 66)

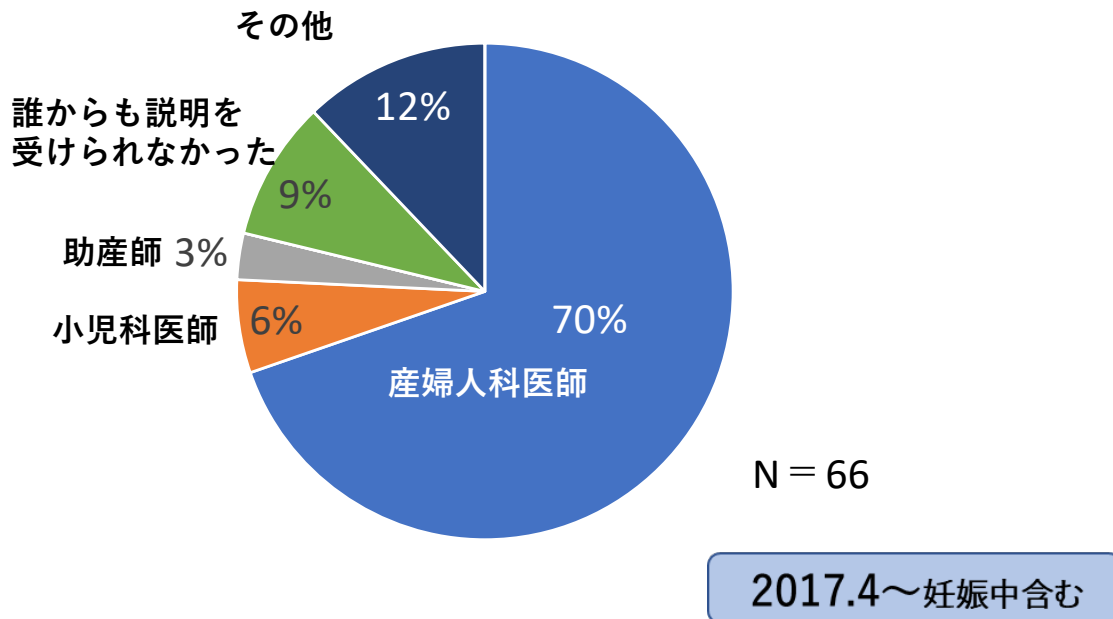


図4 HTLV-1母子感染や予防法について説明の理解度

現在妊娠中の妊婦さん<Ⅰ>/すでに出産されたお母さん<Ⅱ> (n= 218)

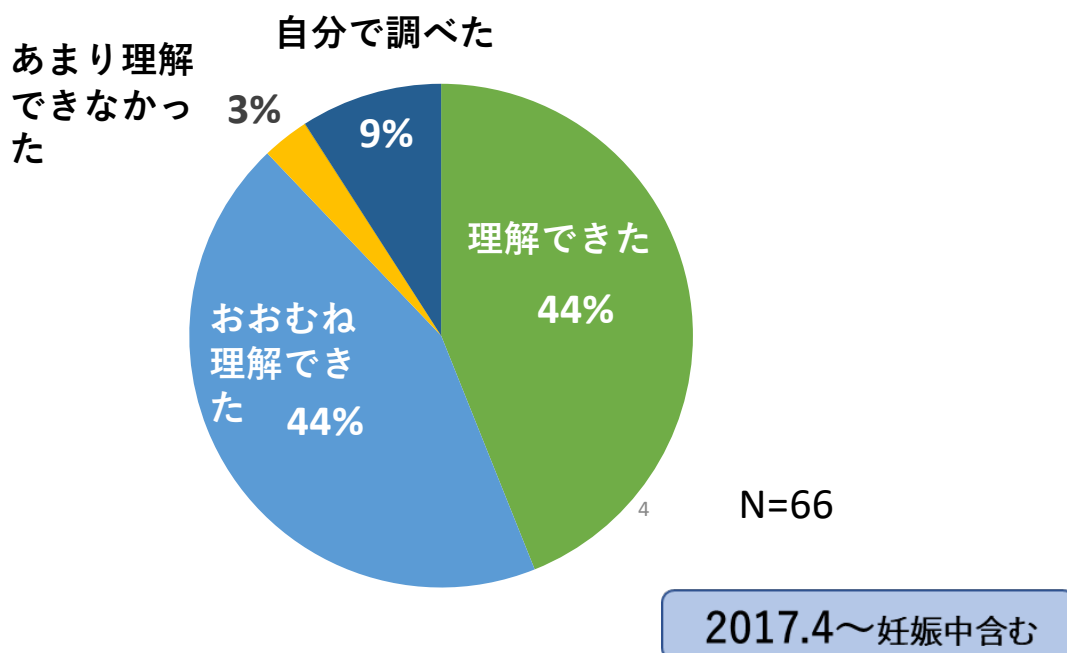


図5 キャリアマザーの授乳法の変化(妊娠中のお母さん含む)

現在妊娠中の妊婦さん<Ⅰ>/すでに出産されたお母さん<Ⅱ> (n = 256)

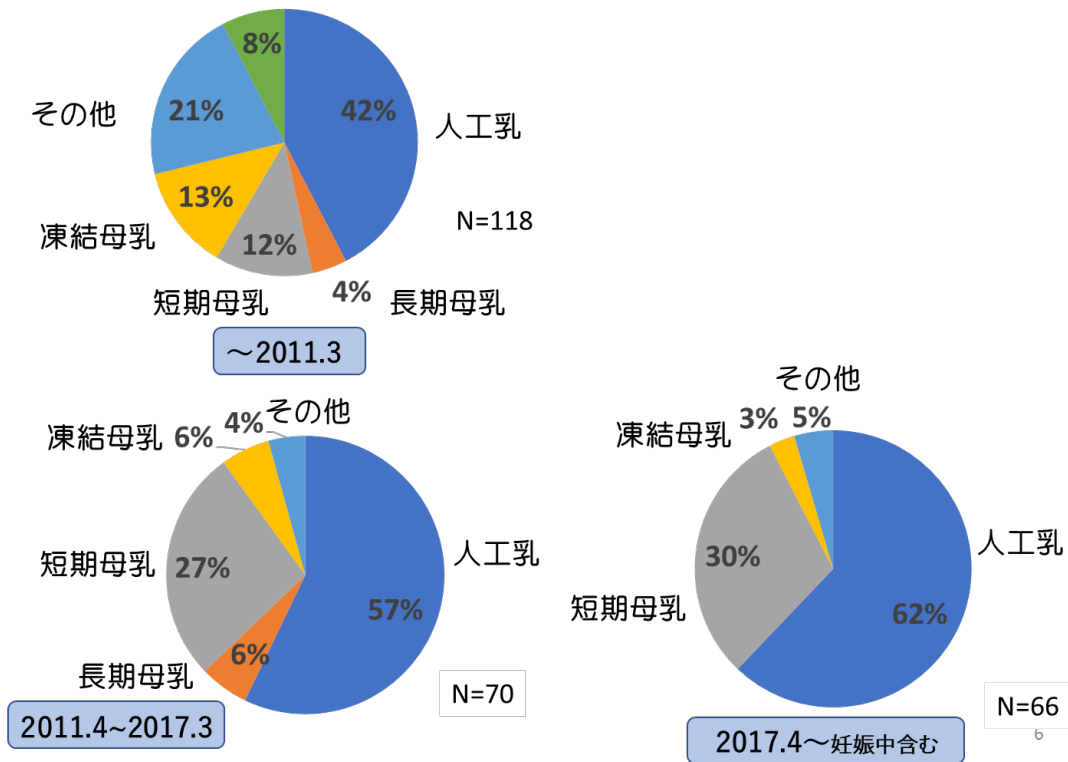


図6 困難さの理由 (複数回答)

すでに出産されたお母さん<Ⅱ> (n = 232)

	全体					九州・沖縄		それ以外		合計
	①	②	③	合計	%	n	%	n	%	
a. 母乳を中断することが難しかった	8	9	3	20	23.5	6	37.5	14	20.3	20
b. 母乳の凍結・解凍が煩雑であった	12	7	0	19	22.4	2	12.5	17	24.6	19
c. 周囲から人工栄養にしていることを指摘され肩身が狭かった	12	17	10	39	45.9	11	68.8	28	40.6	39
d. 母乳を与えられないことの罪悪感にさいなまれた	23	25	15	63	74.1	12	75.0	51	73.9	63
e. 医療者の支援が不十分であった	5	6	3	14	16.5	1	6.3	13	18.8	14
f. 家族の協力が得られなかった	2	1	0	3	3.5	0	0.0	3	4.3	3
g. その他	12	9	2	23	27.1	2	12.5	21	30.4	23
合計	41	27	17	85	100.0	16	100.0	69	100.0	

※子の生年月日 ①2011年3月31日以前 ②2011年4月1日~2017年3月31日 ③2017年4月1日以後
 ※子の生年月日別の合計と地域別の合計は、無回答があるため一致しない
 ※設問10にて「b.容易ではなかった」と回答した85名を母数として%算出

図7 支援が不十分と考える理由（複数回答）

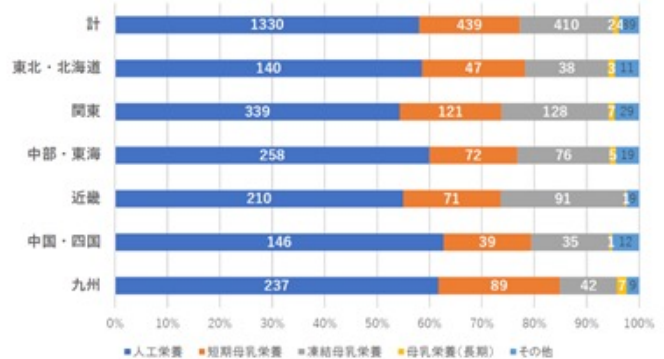
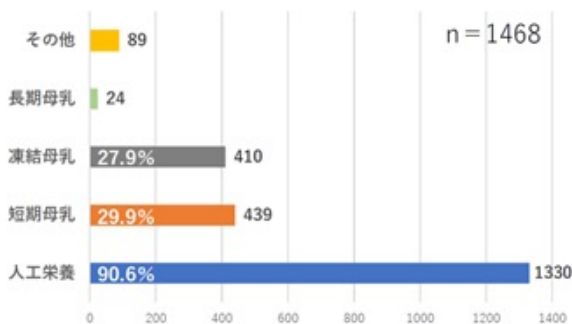
すでに出産されたお母さん<II> (n = 232)

	全体					九州・沖縄		それ以外		合計
	①	②	③	合計	%	n	%	n	%	
a. 母子感染予防についての説明が不十分である	22	15	6	43	27.9	11	40.7	32	25.2	43
b. 医療者がHTLV-1母子感染についてよくわかっていない	30	20	7	57	37.0	9	33.3	48	37.8	57
c. 具体的な栄養法の支援が欲しい	17	13	9	39	25.3	9	33.3	30	23.6	39
d. 母親の気持ちに寄り添って指導して欲しい	33	25	15	73	47.4	15	55.6	58	45.7	73
e. 産婦人科から小児科への連携がほとんどない	17	22	14	53	34.4	8	29.6	45	35.4	53
f. 相談先がわからなかった	47	20	13	80	51.9	10	37.0	70	55.1	80
g. その他	14	11	1	26	16.9	5	18.5	21	16.5	26
合計	83	45	26	154	100.0	27	100.0	127	100.0	

※子の生年月日 ①2011年3月31日以前 ②2011年4月1日～2017年3月31日 ③2017年4月1日以後
 ※子の生年月日別の合計と地域別の合計は、無回答があるため一致しない
 ※設問12にて「b.不十分である」と回答した154名を母数として%算出

図8

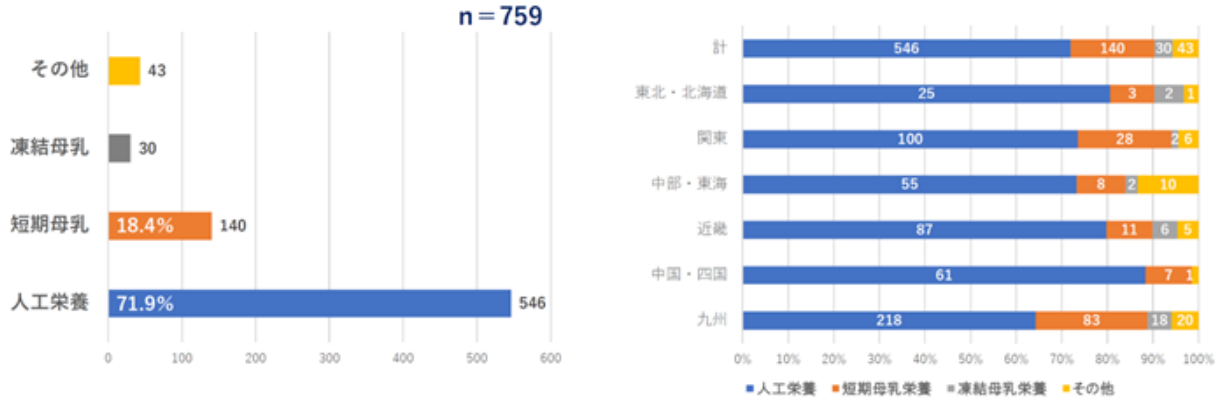
実際にHTLV-1キャリアと診断された女性に
 貴施設ではどのような授乳法を原則的に勧めますか
 （複数回答）



施設ごとにみると、90%で人工栄養、30%で短期母乳、28%で凍結母乳が推奨されていた。

図9

実際にHTLV-1キャリアと診断された女性の栄養方法の選択 (複数回答)



キャリアの授乳方法として

- 全体では70%以上が人工栄養、18%が短期母乳を選択していた。
- 九州では短期母乳が選択される割合がやや多めであった。

図10

HTLV-1キャリアが短期母乳を選択した場合、貴施設は母乳育児中のケアはいつ頃まで行っていますか



産科施設での母乳育児中のケアは45%は1か月健診までで、断乳が必要な時期までのケアを行っているのは54.9%にとどまった。

図11 産婦人科HTLV-1診療の基幹施設の分布

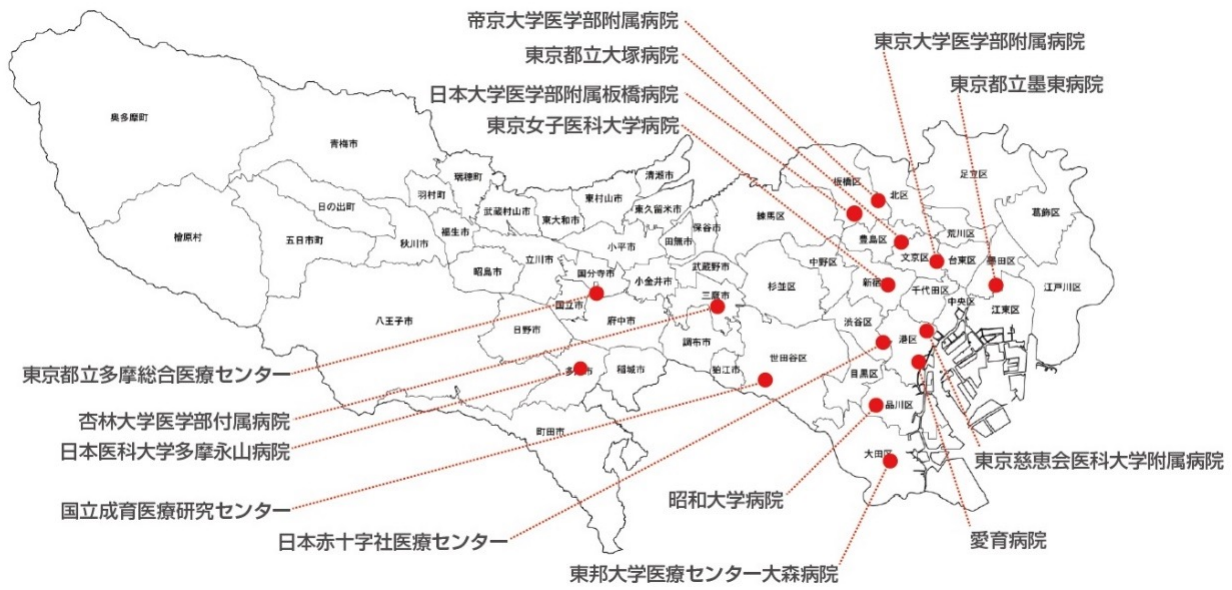


図12 東京プログラムでの小児相談窓口の分布



表1 日本HTLV-1学会登録医療機関一覧令和3年度年次報告集計

施設番号	施設名	初診数						合計	保健所からの 相談件数	相談センター等の 院内他科対応件 数	再診件数	近隣施設研修
		日赤からの 紹介	周産期施設 からの紹介	保健所から の紹介	他医療機関 からの紹介		紹介無し					
					紹介無し	紹介無し						
1	東大医科研病院	3	1	0	9	19	32	0	0	120	0	
2	聖マリアノバ医大病院	1	1	0	1	4	7	0	4	157	2	
3	JR大陂鉄道病院	0	2	1	10	0	13	0	0	181	1	
4	佐賀大病院	3	5	0	2	15	25	0	10	127	0	
5	今村総合病院	2	1	1	27	18	49	0	8	180	1	
6	鹿児島大学病院	0	0	0	12	0	12	0	1	35	1	
7	宮崎大学病院	2	1	0	11	3	17	0	4	65	1	
8	大分大学病院	0	0	0	1	3	4	0	3	30	0	
9	熊本大学病院	2	0	0	10	0	12	0	0	37	0	
10	琉球大学病院	7	0	0	0	2	9	0	15	55	0	
11	九州がんセンター	7	0	0	5	0	12	0	36	285	0	
12	京都大学病院	0	0	0	3	0	3	0	9	45	1	
13	長崎大学病院	0	0	0	3	0	3	0	16	6	0	
14	岩手医大病院	0	0	0	5	1	6	0	5	48	0	
15	山形大学病院	0	0	0	3	0	3	0	0	0	0	
16	佐世保市総合医療センター	0	3	0	6	0	9	0	13	40	0	
	計	27	14	2	108	65	216	0	124	1411	7	